

大宮中学校 技術・家庭科《第3学年家庭分野》年間指導計画

技術・家庭科 教科の目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

家庭科 教科目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域の関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

例：知は、「知識・技能」、思は、「思考・判断・表現」、態は「主体的に取り組む態度」

月	単元名等と配当時数	指導目標	指導内容	観点	評価規準
4	A 家族・家庭生活 ①自分の成長と家族・家庭生活 <3時間>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での活動を考え、家庭には様々なはたらきがあることを理解する 家庭や家族の基本的な機能を知る 家庭生活と地域とのかかわりについて理解する 家庭生活におけるSDGsの取り組みについて、具体的に考える 	A 家族・家庭と子どもの成長 ①自分の成長と家族・家庭生活 ①今の自分とこれまで ②わたしの生活と家族・家庭 ③家庭生活を支える社会 ④中学生にとっての家族	知 思 態	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や家族の基本的な機能やはたらきについて理解している 家庭が地域や社会とつながっていることを理解し、自分が関われることを考えられる SDGsの取り組みであるジェンダー平等、働きがい、健康と福祉について、働き方の視点から将来の社会生活について関心を持ち、自分にとっての理想の社会生活とは何か、考えることができる。 家庭と家族関係について関心を持ち、自分の生活を振り返って、課題を見つけて問題解決の方法を考えることができる
7	②幼児の生活と家族 <7時間>	<ul style="list-style-type: none"> 同年代の人間以外の存在、特に自分よりも幼く弱い存在の幼児に興味・関心を持つ 幼児の体・心の発達の特徴を知る 幼児の生活の特徴を知る 	② 幼児の生活と家族 ①幼児のころと今の自分 ②幼児の体の発達 ③幼児の心の発達 ④発達にとってのおとなの役割 ⑤遊びが必要なわけ ⑥遊びを支える環境	態 知	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の存在に関心を持ち、自分の幼児期を振り返ることができる 幼児の体の発達と成長の特徴を理解している 幼児の心の発達の特徴と、家族の役割の重要性について理解している 幼児の生活の特徴を知り、家族の役割について理解している

9		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児が育つ環境の役割・大切さを知り、家族としての役割を考える ・幼児の成長と地域の関わり の大切さを知る ・乳幼児の遊びの意義や特徴についてわかる 		<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児と地域との関わりについて自分が関われることを考えられる ・幼児の特徴を理解し、年長者として具体的な声かけや接し方を考えられる ・住みやすい街づくり、子どもを支援する施設や活動、教育、貧困、ジェンダー平等など、子どもを育てる家庭生活の視点から、SDGsの取り組みについて実践できることを具体的に考えることができる。
10				
11	③幼児とのかかわり <6時間>	<ul style="list-style-type: none"> ・成長発達やコミュニケーションを促す幼児の遊び方について考え、計画する。 ・乳幼児の遊びを計画するとともに、乳幼児に関心をもつ。 	<p>③幼児とのかかわり</p> <p>①ふれあい体験の前に</p> <p>②ドキドキワクワクふれあい体験</p>	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊びの特徴と重要性を理解している ・幼児の年齢や発達に合わせた遊びについて、理解している
12				
1		<ul style="list-style-type: none"> ・遊び道具の製作を通して、乳幼児についての理解を深める ・幼児が興味を引くような作品の作成 <p>*名前ワッペン の作成</p>	<p>③ふれあい体験は幼児からの贈り物</p> <p>幼児の喜ぶおもちゃ作り</p>	<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達や特徴に合わせて、オリジナリティのあるおもちゃを製作することができる ・乳幼児の発達に応じた遊びや遊び道具、遊び方について考え、工夫している <p>態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品づくりについて、意欲的に取り組んでいる。
			<p>幼児のおやつを作ろう</p>	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児のおやつの特徴を理解している・
			<p>幼児のおやつを考えよう</p>	<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の体の発達にあったおやつを工夫して考えることができる。 <p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全や衛生に留意しながら、基本的調理操作ができる。 <p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なおやつを作ることができる。 <p>態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班員と協力しながら意欲的に調理実習に取り組んでいる。
2				
3				<p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児に適したおやつについて、図書館などで本を読み、より良いおやつを考案できる。